

大学医学部・医科大学^{*1}

中 川 米 造^{*2}

1. 学校数の推移

昭和56年3月現在で、わが国の大学医学部または医科大学の総数は79施設（ほかに自衛官のための医療要員養成のために昭和49年設立された防衛医科大学校を加えれば80校となる）。うち国立42校、公立8校および私立29校という構成になる（表1）。昭和56年度から、最後の無医大県であった沖縄県の琉球大学医学部が学生を受け入れることになったので、以後毎年8,580人の医学生が、新たに加わることになる。

わが国の医学教育施設は、第2次大戦後、新制に切り替えられて再発足した昭和26年から27年にかけては、国立21校、公立12校、私立13校の計46校であった。1学年当たりの定員総数も、およそ2,800人から2,900人程度で、昭和46年まで経過した。その間、3校の公立医科大学が国立に移管されたが、総数には増減はなかった。

昭和36年に、国民皆保険が達成されてから医療需要の急速な増大があり、各地で深刻な医師不足が叫ばれ、大きな社会問題となった。このため政府は、国立大学の医学部定員を若干増加することで対応したが、さらに医師不足は緩和しなかったため、昭和46年度から医学校の新增設策がとられるようになった。

この新設政策の当初、国の財政支出の増大を避けるために、国立医大の新設よりも、私立医科大学の設立申請を認可する方針を主とした。確かに、私立大学は、国公立大学のように、官僚的、形式的画一性から比較的に解放され、社会あるいは学問の要請にも容易に即応できる長所をもっている。しかしながら、設立者が附属病院や研究施設の建設運営など、巨額の資金を準備することには困難がある。当然のことながら、入学者あるいは入学希望者の親たちから、いわゆる“受益者負担”あるいは“教育投資”の意味をこめて学校財政への寄付が期待さ

れざるをえない。入学者選考に金銭がからむというスキャンダルが、しきりに噂され、ときに、マス・メディアを騒がせた。文部省は、この事態に対して、資金準備計画について審査を多少厳重にするとともに、私立医大主体の増設方針を、昭和48年国立医大の新設を主体にすることに切り替えることになった。いわゆる“無医大県解消”政策である。当時は、日本の経済は「高度成長」をみせていたが、48年10月のオイルショック以降、この政策の実現に危惧を生じたが、上述のように昭和54年10月の琉球大学医学部の設置によって、終結した。昭和46年にわが国の医学校数46校に33校（防衛医科大学校を除く）が新設として加わったことになる。内訳は、国立17校と私立16校である。

2. 教 員

このように急速に増加した医科大学は教員の確保に困難を生じる。新設の医科大学においては、審査基準を充すため、教授、助教授の定員は概ね確保できているが、講師以下のスタッフの充足にはいっていない。一方、既設の大学は新設校に教員を供出したために、助教授層に、とくに基礎系のそれに欠員が目立つ。『1980—81教育機関名簿』（中外製薬株式会社）によると、1980年5月1日現在で、基礎系の助教授のポストの半数以上が空席になっている学校は12校に達する（表2）。

同資料によって、とくに助教授の欠員率の高い講座をみると、下記のように、法医学、解剖学、寄生虫学および生理学などが高い。これらは現在の教育指導体制に困難のあることを想像されるばかりでなく将来のそれについても危惧がある（表3）。

なお、学生数100人当たりの国・公・私立医学部・医科大学の教員数をみると、公・私立の教員が相対的に低いことがうかがわれる（表4）。ただし、それが教育機能にどのように反映しているかについての調査はない。一般に私立医大の教員は、教育へ割く時間の比重がいちじるしく多いことは、よく聞くとこである。

*1 School of Medicine, Medical College in Japan.

*2 NAKAGAWA, Yonezo 大阪大学医学部環境医学講座

表 1 大学医学部および医科大学

A. 国立大学	開設沿革	入学定員数
北海道大学医学部	大正 8. 4. 北海道帝国大学医学部	120
旭川医科大学	昭和48. 9. 開設	120
弘前大学医学部	昭和19. 4. 県立青森医学専門学校	120
	昭和23. 2. 弘前医科大学	
	昭和26. 4. 弘前大学医学部	
東北大学医学部	文化14. 藩医学校	120
	明治13. 宮城医学校	
	明治34. 4. 仙台医学専門学校	
	大正 4. 7. 東北帝国大学医科大学	
	大正 8. 4. 東北帝国大学医学部	
秋田大学医学部	昭和45. 4. 開設	100
山形大学医学部	昭和48. 9. 開設	120
筑波大学医学専門学群	昭和49. 4. 開設	120
群馬大学医学部	昭和18. 前橋医学専門学校	100
	昭和23. 前橋医科大学	
	昭和24. 5. 群馬大学医学部	
千葉大学医学部	明治 9.10. 公立千葉病院医教場	120
	明治20. 9. 第一高等学校医学部	
	明治27. 7. 第一高等学校医学部	
	明治34. 4. 千葉医学専門学校	
	大正12. 4. 千葉医科大学	
	昭和24. 5. 千葉大学医学部	
東京大学医学部	安政 5. 種痘所	100
	明治 2.12. 大学東校	
	明治10. 4. 東京医学校	
	明治19. 3. 東京帝国大学医科大学	
	昭和22.10. 東京大学医学部	
東京医科歯科大学	昭和 3.10. 東京高等歯科医学校	80
	昭和19. 4. 東京医学歯学専門学校	
	昭和21. 8. 東京医科歯科大学	
新潟大学医学部	明治43. 4. 新潟医学専門学校	120
	大正11. 4. 新潟医科大学	
	昭和26. 4. 新潟大学医学部	
富山医科薬科大学	昭和50. 1. 開設	100
金沢大学医学部	文久 2. 3. 種痘所	120
	慶応 3. 6. 養生所	
	明治 3. 2. 金沢医学館	
	明治 8. 8. 石川県金沢病院医学所	
	明治12.11. 金沢医学校	
	明治20. 8. 第四高等学校医学部	
	明治27. 7. 第四高等学校医学部	
	明治34. 4. 金沢医学専門学校	
	大正12. 3. 官立金沢医科大学	
	昭和24. 5. 金沢大学医学部	
福井医科大学	昭和53.10. 開設	100
山梨大学医学部	昭和53.10. 開設	100

A. 国立大学	開設沿革	入学定員数
信州大学医学部	昭和19. 3. 松本医学専門学校 昭和23. 2. 松本医科大学	100
岐阜大学医学部	昭和24. 5. 信州大学医学部 昭和18. 12. 岐阜県立女子医学専門学校 昭和22. 5. 岐阜県立医科大学 昭和25. 4. 岐阜県立大学医学部 昭和39. 4. 岐阜大学医学部（国立移管）	80
浜松医科大学	昭和49. 6. 開設	100
名古屋大学医学部	明治 4. 仮医学校 大正 9. 6. 愛知医科大学 昭和 6. 4. 名古屋医科大学（国立移管） 昭和14. 4. 名古屋帝国大学医学部 昭和22. 10. 名古屋大学医学部	100
三重大学医学部	昭和18. 10. 県立三重医学専門学校 昭和23. 2. 県立三重医科大学 昭和47. 5. 三重大学医学部（国立移管）	100
滋賀医科大学	昭和49. 10. 開設	100
京都大学医学部	明治32. 7. 京都帝国大学医科大学 昭和22. 9. 京都大学医学部	120
大阪大学医学部	明治 2. 11. 大阪医学校（政府直轄） 明治 3. 2. 大阪府医学校 明治 4. 7. 大阪医学校（文部省） 明治 6. 2. 大阪府立病院教授局 明治13. 3. 府立大阪医学校 明治21. 1. 大阪医学校 明治34. 6. 大阪府立医学校 明治36. 10. 大阪府立高等医学校 大正 4. 10. 府立大阪医科大学 昭和 6. 4. 大阪帝国大学医学部 昭和22. 9. 大阪大学医学部	100 (20)
神戸大学医学部	昭和16. 1. 兵庫県立医学専門学校 昭和21. 4. 兵庫県立医科大学 昭和26. 3. 県立神戸医科大学 昭和39. 4. 神戸大学医学部	120
鳥取大学医学部	昭和20. 3. 米子医学専門学校 昭和23. 2. 米子医科大学 昭和24. 5. 鳥取大学医学部（国立移管）	120
島根医科大学	昭和50. 10. 開設	100
岡山大学医学部	明治 3. 4. 岡山藩医学校 明治 5. 1. 医学所 明治13. 9. 岡山県医学校 明治21. 4. 第三高等中学校医学部 明治29. 6. 第三高等学校医学部 明治34. 4. 岡山医学専門学校 大正11. 4. 岡山医科大学 昭和24. 5. 岡山大学医学部	120
広島大学医学部	昭和20. 3. 広島県立医学専門学校	120

A. 国立大学	開設沿革	入学定員数
山口大学医学部	昭和23. 4. 広島県立医科大学 昭和28. 8. 広島大学医学部 昭和19. 1. 山口県立医学専門学校 昭和22. 6. 山口県立医科大学 昭和39. 山口大学医学部（国立移管）	120
徳島大学医学部	昭和18. 2. 徳島県立医学専門学校 昭和23. 2. 徳島県立医科大学 昭和24. 5. 徳島大学医学部（国立移管）	120
香川医科大学	昭和53. 10. 開設	100
愛媛大学医学部	昭和48. 9. 開設	120
高知医科大学	昭和51. 10. 開設	100
九州大学医学部	明治36. 3. 京都帝国大学福岡医科大学 明治44. 4. 九州帝国大学医科大学 大正 8. 2. 九州帝国大学医学部 昭和22. 10. 九州大学医学部	120
佐賀医科大学	昭和51. 10. 開設	100
長崎大学医学部	安政 4. 医学伝習所 明治 4. 11. 文部省長崎医学校 明治20. 8. 第五高等学校医学部 明治27. 9. 第五高等学校医学部 大正12. 3. 長崎医科大学 昭和24. 5. 長崎大学医学部	120
熊本大学医学部	宝暦 6. 医学寮再春館 明治 4. 7. 県立医学校 明治37. 1. 私立熊本医学専門学校 大正10. 4. 熊本県立医学専門学校 大正11. 5. 熊本県立医科大学 昭和24. 5. 熊本大学医学部	120
大分医科大学	昭和49. 6. 開設	100
宮崎医科大学	昭和49. 6. 開設	100
鹿児島大学医学部	昭和17. 県立医学専門学校 昭和22. 6. 県立医科大学 昭和27. 2. 鹿児島大学医学部（国立移管）	120
琉球大学医学部	昭和54. 10. 設置	100
計		4700 (20)
B. 公立大学		
札幌医科大学	昭和20. 5. 北海道女子医学専門学校 昭和25. 2. 札幌医科大学	100
福島県立医科大学	昭和19. 1. 福島県立女子医学専門学校 昭和23. 福島県立医科大学	80
横浜市立大学医学部	昭和19. 4. 横浜市立医学専門学校 昭和22. 市立横浜医科大学 昭和27. 2. 横浜市立大学医学部	60
名古屋市立大学医学部	昭和18. 4. 名古屋女子高等医学専門学校 昭和22. 名古屋女子医科大学 昭和27. 4. 名古屋市立大学医学部	80

B. 公立大学	開設沿革	入学定員数
京都府立医科大学	明治 5. 11. 仮療養所 明治15. 11. 医学校 明治36. 6. 京都府立医学専門学校 大正10. 10. 京都府立医科大学	100
大阪市立大学医学部	昭和19. 2. 大阪市立医学専門学校 昭和23. 4. 大阪市立医科大学 昭和30. 4. 大阪市立大学医学部	80
奈良県立医科大学	昭和20. 3. 奈良県立医学専門学校 昭和22. 6. 奈良県立医科大学	100
和歌山県立医科大学	昭和20. 4. 和歌山県立医学専門学校 昭和23. 4. 和歌山県立医科大学	60
計		660
C. 私立大学		
岩手医科大学	昭和 3. 2. 岩手医学専門学校 昭和22. 6. 岩手医科大学	80
自治医科大学	昭和47. 4. 開設	100
独協医科大学	昭和47. 7. 開設	100
埼玉医科大学	昭和47. 2. 開設	100
北里大学医学部	昭和45. 3. 開設	120
杏林大学医学部	昭和45. 3. 開設	100
慶応義塾大学医学部	大正 5. 12. 慶応義塾大学医学科 大正 9. 4. 大学令による医学部設置	100
順天堂大学医学部	昭和18. 12. 順天堂医学専門学校 昭和21. 順天堂医科大学	90
昭和大学医学部	昭和 3. 昭和医学専門学校 昭和21. 昭和医科大学 昭和27. 3. 昭和大学医学部	120
帝京大学医学部	昭和46. 3. 開設	120
東海大学医学部	昭和49. 1. 開設	110
東京医科大学	大正 7. 東京医学専門学校 昭和22. 東京医科大学	120
東京慈恵会医科大学	明治24. 9. 東京慈恵医院医学専門学校 明治41. 私立東京慈恵会医院医学専門学校 大正10. 東京慈恵会医科大学	120
東京女子医科大学	明治33. 12. 東京女子医学校 明治45. 3. 東京女子医学専門学校 昭和22. 6. 東京女子医科大学	100
東邦大学医学部	大正15. 東邦女子医学専門学校 昭和24. 2. 東邦大学医学部	100
日本大学医学部	大正14. 4. 日本大学専門部医学科 昭和17. 4. 日本大学医学部	120
日本医科大学	明治37. 4. 日本医学校 明治45. 7. 日本医学専門学校 大正15. 2. 日本医科大学	100
聖マリアンナ医科大学	昭和46. 1. 東洋医科大学 昭和46. 8. 改称	100

C. 私立大学	開設沿革	入学定員数
金沢医科大学	昭和47. 3. 開設	100
愛知医科大学	昭和46. 12. 開設	100
名古屋保健衛生大学医学部	昭和46. 11. 開設	100
大阪医科大学	昭和 2. 2. 大阪高等医学専門学校 昭和21. 3. 大阪医科大学	100
関西医科大学	昭和 3. 6. 大阪女子高等医学専門学校 昭和22. 6. 大阪女子医科大学 昭和29. 12. 関西医科大学（共学）	100
近畿大学医学部	昭和49. 1. 開設	100
兵庫医科大学	昭和46. 11. 開設	100
川崎医科大学	昭和45. 3. 開設	120
産業医科大学	昭和53. 4. 開設	100
福岡大学医学部	昭和47. 1. 開設	100
久留米大学医学部	昭和 3. 2. 九州医学専門学校 昭和25. 2. 久留米大学医学部	120
計		3, 220
総計		8, 580

1. 設置沿革は『医学教育機関要覧』（昭和53年 ぎょうせい）を参考にした
2. 定員数は文部省大学局大学課監修『全国大学一覧』（昭和56年度版）

表 2 医学部教員の欠員率

	基礎系	臨床系	総数
教授	2. 59% (N=1082)	2. 13% (N=1738)	2. 30% (N=2820)
助教授	28. 16% (N=1140)	9. 51% (N=1819)	19. 3% (N=2559)

表 3 助教授の空席率の多い講座

法医学	47. 0%	(N=66)
解剖学	43. 8%	(N=144)
寄生虫学	37. 5%	(N=48)
生理学	29. 8%	(N=151)

3. 学 費

昭和53年度入学の国立大学の学費は、年額144,000円、入学金は60,000円であった。昭和54年度は、それぞれ180,000円、と100,000円になり、昭和57年度からは、学費は226,000円、入学金は100,000円となる予定である。私立大学との格差が大きいので、これを次第に接近させるのが、政府の方針だという。

公立医科大学の学費（表5）も次第に上昇しつつある。しかしながら学校によっては国立を下廻るところがある。私立医科大学には、私学振興財団を通じて、相

表 4 医学部教員数（本務者のみ）昭和54年 4 月

	教授	助教授	講師	助手	計
国立					
医学部	12. 7	10. 4	5. 0	29. 6	55. 0
付属病院	0. 3	0. 7	4. 8	12. 6	18. 4
計	13. 0	11. 1	9. 8	39. 5	73. 4
公立					
医学部	6. 6	5. 5	5. 9	25. 1	43. 1
付属病院	0. 1	0. 4	0. 9	2. 5	3. 9
計	6. 7	5. 9	6. 8	27. 6	47. 0
私立					
医学部	6. 1	5. 6	8. 0	25. 1	44. 8
付属病院	0	0. 1	0. 3	0. 8	1. 2
計	6. 1	5. 7	8. 3	25. 9	46. 0

『学校基本調査』昭和54年度版

表 5 昭和55年度公立大学医学部・医科大学学費

(単位：万円)

学 校 名	入学金	授業料	施設費	実習費	諸会費	納入学 初年時	入学手続き時 の最少納入額
札幌医大	8	18	0	0	10	3.6	18
福島医大	県内者	18	0	—	15.8	41.8	29.8
	県外者	32	18	0	—	20.8	58.8
横浜市大	市内者	18	5	0	2.8	29.8	17.8
	市外者	4	18	5	0	2.8	17.8
名古屋市大	8	18	0	0	11.165	37.165	19.165
京都府医大	6	14.4	0	0	0	20.4	13.2
大阪市大	市内者	18	0	0	0	22	13
	市外者	4	18	0	0	0	21
奈良医大	県内者	12	0	0	0.6	17.6	10.6
	県外者	5	12	0	0	0.6	25.6
和歌山医大	県内者	20	0	0	0	26	15.5
	県外者	8	18	0	0	0	39.5

「蟹雪時代一別冊一」旺文社，昭和56年度版

表 6 昭和55, 56年度私立医科大学学生納入金一覧

(単位：万円)

大 学 名	㊤入学年度のみ納入					㊤毎年度納入					初年度 納入額 ㊤+㊤	受 験 料
	入学金	施設 備費 等	教育 充 実 費	小計	授業料	実験 実習費	施設 充 実費	教育 充 実費	小計			
岩手医科大学	56	60	200	300	560	150	20			170	730	3
	55	60	200	300	560	150	20			170	730	3
日本大学医学部	56	100	100	500	700	150	30	2年次 以降50		230	880	4
	55	100	100	500	700	150	30	2年次 以降50		230	880	4
日本医科大学 ○	56	100			100	*142	*23.5	*23.5		*189	*289	3
	55	100			100	*135.5	*22.5	*22.5		*180.5	*280.5	3
東邦大学医学部 ○	56											3
	55	100		500	600	150		20		170	770	3
東京医科大学 ○	56	50		600	650	*133.1	*13.3	*53.2		*199.6	*849.6	4
	55	50		600	650	*121	*12.1	*48.4		*181.5	*831.5	3
東京女子医科大	56	150	200	470	820	200	80			280	1,100	3
	55	150	200	470	820	200	80			280	1,100	3
東京慈恵会医科大学 ○	56	80		200	280	120				120	400	3
	55	40		200	240	120				120	360	2
慶応義塾大学医学部 ○	56											
	55	*16			*16	*114	*14	*17		*145	*161	4
昭和大学医学部	56	50	100	950	1,100	90	10	2年次 以降100		200	1,200	3
	55	50	100	950	1,100	90	10	2年次 以降100		200	1,200	3

大学名	①入学年度のみ納入					②毎年度納入					初年度 納入額 ①+②	受験料
	入学金	施設 備費等	施設 教育 費	教育 充 費	小計	授業料	実験 実習費	施設 備費等	施設 教育 費	小計		
順天堂大学医学部	56	100		600	700	200		150		350	1,050	3
	55	100		600	700	200		150		350	1,050	3
関西医科大学	56	100	100	500	700	120	30			150	850	3
	55	100	100	500	700	120	30			150	850	3
大阪医科大学	56	30		950	980	60	30	60		150	1,130	3
	55	30		950	980	60	30	60		150	1,130	3
久留米大学医学部	56	50		600	650	200		100		300	950	3
	55	50		600	650	200		100		300	950	3
北里大学医学部	56	100		500	600	150	50	50		250	850	3
	55	100		500	600	150	50	50		250	850	3
杏林大学医学部	56	100		250	350	200	50	100		350	700	3
	55	100		250	350	200	50	100		350	700	3
川崎医科大学	56											
	55	50	250		300	200	50		100	350	650	3
聖マリアンナ医科大学	56	70		380	450	150	40		120	310	760	3
	55	70		380	450	150	40		120	310	760	3
帝京大学医学部 ○	56	100		450	550	*180	*20	*120		*320	*870	3.5
	55	100		450	550	*152	*10.8	*108		*270.8	*820.8	3
名古屋保健衛生大学 医学部	56	50		500	550	120	60	100		280	830	3
	55	50		500	550	120	60	100		280	830	3
兵庫医科大学 ○	56	50		500	550	200	50	110		360	910	3
	55	50		500	550	150	50	80		280	830	3
愛知医科大学 ○	56	50		500	550	200	60	120		380	930	3
	55	100		500	600	150	60	120		330	930	3
福岡大学医学部	56	100		400	500	250	11	130	2年次と3年次のみ 200	1年次と4年次以降 2年次・3年次 391 591	891	3
	55	100		400	500	250	11	130	2年次と3年次のみ 200	1年次と4年次以降 2年次・3年次 391 591	891	3
自治医科大学	56	50			50	65	10	60		135	185	2
	55	50			50	65	10	60		135	185	2

大学名	㊤入学年度のみ納入					㊤毎年度納入					初年度 納入額 ㊤+㊤	受 験 料
	入学金	施設 備費等	教育充 実費	小計	授業料	実験実 習費	施設充 実費	教育充 実費	小計			
埼玉医科大学	56	100		400	500	150	1年次・2年次 50 3年次～6年次 100	50		1年次・2年次 250 3年次以降 300	750	3
	55	100		400	500	150	1年次・2年次 50 3年次～6年次 100	50		1年次・2年次 250 3年次以降 300	750	3
金沢医科大学	56	200		1,000	1,200	330				330	1,530	3
	55	200		1,000	1,200	330				330	1,530	3
独協医科大学	56	100		400	500	230	20	50		300	800	3
	55	100		400	500	230	20	50		300	800	3
近畿大学医学部	56	100			100	200		160		360	460	1.5
	55	100			100	200		160		360	460	1.5
東海大学医学部	56											
	55	80			80	150	50	150	(一括 納入も 可)130	480	560	3
産業医科大学	56	50			50	65	10	60		135	185	1.5
	55	50			50	65	10	60		135	185	1.5

注：大学名の下に○印は、学納金の改定を予定している大学。*はスライド制、空欄は未定

(昭和55年11月26日現在)

当年度の運営費の補助があるようになっており、公立医科大学は、財政的にもゆたかでない自治体が設立本体になっているところが多く、現在もっとも運営に困難をきたしている。

私立医科大学の学費は表6のとおりである。文部省では、私立医大に対し、昭和52年秋、入学を条件とした寄付金を一切とらないよう通達を出した。その結果、53年度から、学生納付金は一率に約4倍に上昇した。昭和56年度の初年度納入額でみると、最低の161万円（慶応義塾大学医学部）から、最高の1,530万円（金沢医科大学）まで、10倍近いひらきがある。これらの納入金のほかに、入学者から寄付金や学債を募っている。

4. 教育費

市川洋が「学校基本調査」(指定統計13号)によって、大学の学部別経費を国立および公立について、昭和53年度について分析したところによると（表7、表8）、国立大学医学部では、総計153,820万円、公立では25,765万円を支出している。これを学生1人当たりになると（表9、表10）それぞれ685万円と、662万円となる。

昭和53年度における国立大学の総教育費は、592,825,718千円、これに対して医学部または医科大学の経費は、68,919,750千円、すなわち全体経費の11.6%、公立大学では、総経費61,362,053千円に対して医学部経費は16,977,228千円すなわち、全体の27.6%になる。医学生数は、国立大学で(4,096/82,533)4.96%、公立では(684/10578)6.46%である。つまり国立大学医学部（医科大学）は、4.96%の学生数で、11.6%の経費を消費しており、公立では、6.46%の学生で27.6%の経費を消費していることになる。

西三郎は、この計算で、昭和53年度の国立の医学部と歯学部を合して、それが全学生数の7.6%に当たるが、経費では34.1%を占めており、このことは、私立においても同様な傾向があるといえし、“このような高額な経費を医学教育に注ぎ込んでその卒業生のほとんどが医師として働くことは、学生の質の問題を除けば好ましいことであるが、一方ではそのことを、医療費上昇の重要な要因になるという矛盾を生じている”と指摘している。

国の財政圧縮が今後大きな課題となっていくことが必

表 7 昭和53年度国立大学経費

	法学部	経済学部	理学部	工学部	歯学部	医学部			
						学部	付属病院	総計	
支出計(100万円)	5,549	11,253	40,925	102,983	8,761	68,920	84,900	153,820	
学生数 (人)	学部	10,044	19,929	17,885	79,125	2,584	22,188	22,684	
	修士課程	220	268	2,577	9,156		36	36	
	博士課程	230	391	2,105	1,492	272	2,065	2,065	
	大学院小計	450	659	4,682	10,648	272	2,101	2,101	
	合計	10,494	20,588	22,567	89,773	2,856	24,289	24,785	
教員数 (人)	計	468	834	3,095	8,020	740	5,086	4,042	9,128
	教授	233	360	838	2,285	138	1,166	47	1,213
	助教授	97	283	795	2,027	100	960	144	1,104
	講師	7	56	176	545	43	477	1,027	1,504
	助手	149	135	1,322	3,163	459	2,483	2,824	5,307

市川 洋:「医者の養成問題」政策科学研究所『医療マンパワーについての研究』1981.12. p. 42

表 8 昭和53年度公立大学経費

	法学部	経済学部	理学部	工学部	歯学部	医学部			
						学部	付属病院	総計	
支出計(100万円)	904	3,076	3,648	7,405	1,490	16,977	8,788	25,765	
学生数 (人)	学部	2,434	7,661	1,088	5,200	764	3,894	3,894	3,894
	修士課程	12	45	185	489	—	—	—	
	博士課程	10	64	158	98	61	335	335	335
	大学院小計	22	109	343	587	61	335	335	335
	合計	2,456	7,700	1,431	5,787	825	4,229	4,229	4,229
教員数 (人)	計	92	247	318	698	125	1,700	162	1,862
	教授	50	115	65	159	23	264	3	267
	助教授	28	85	78	124	17	213	12	225
	講師	2	19	16	111	16	225	42	267
	助手	12	28	159	304	69	998	105	1,103

市川 洋:同上

表 9 昭和53年度国立大学学生1人当たり経費

(単位:万円)

	法学部	経済学部	理学部	工学部	歯学部	医学部	付属病院	医学部・病院総計
合計	55	57	229	130	339	311	1,063	685
A. 消費的支出	49	45	179	104	210	222	880	413
人件費	41	36	131	79	165	158	432	
教員給与	30	26	98	54	125	112	113	
職員給与	10	10	33	25	40	46	320	
その他	8	9	49	26	45	64	447	
B. 資本的支出	7	11	50	26	129	89	183	
付属病院収入▲	—	—	—	—	—	—	▲689	
参考:大学院生も含めた 場合の合計	53	55	181	115	307	284	(343)	626

市川 洋:同上

表 10 昭和53年度公立大学学生1人当たり経費

(単位：万円)

	法学部	経済学部	理学部	工学部	歯学部	医学部	付属病院	医学部・病院統計
合 計	37	40	335	142	195	436	1,405	662
A. 消費的支出	35	36	294	128	145	386	1,299	506
人 件 費	28	27	224	94	102	289	562	
教員給与	24	20	183	76	71	206	34	
職員給与	4	7	41	18	32	83	528	
そ の 他	7	9	70	34	42	97	737	
B. 資本的支出	2	5	42	14	50	50	106	
付属病院収入▲	—	—	—	—	—	—	▲1,179	
参考：大学院生も含めた 場合の合計	37	40	255	128	181	401	208	609

市川 洋：同上

至の状況で、これらの数字が、どのように国民に受け止
められるか、他人事としてでなく、考慮しなければなら
ないであろう。

* * *